

2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月13日

上場会社名 株式会社 ひらまつ

上場取引所 東

コード番号 2764 URL <https://www.hiramatsu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 遠藤 久

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 服部 亮人

TEL 03-5793-8818

四半期報告書提出予定日 2024年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	10,641	12.2	389		332		294	
2023年3月期第3四半期	9,487	36.0	333		307		335	

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 340百万円 (%) 2023年3月期第3四半期 386百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	4.16	3.87
2023年3月期第3四半期	4.74	

2023年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	21,879		4,862		22.1	
2023年3月期	21,761		4,521		20.7	

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 4,840百万円 2023年3月期 4,500百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,073	5.6	12		68		111		1.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	74,740,400 株	2023年3月期	74,740,400 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	4,140,889 株	2023年3月期	4,095,239 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	70,614,551 株	2023年3月期3Q	70,689,143 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年12月31日)における国内経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和により社会経済活動の正常化が進み、個人消費の持ち直しやインバウンド需要の回復が見られたものの、世界情勢の緊迫化、資源価格や原材料価格の高騰、円安による物価の上昇などにより、原材料をはじめ人件費や物流費の上昇は継続しており、予断を許さない状況となっております。

このような状況の中、当社グループは、2022年5月13日に公表した中期経営計画で掲げた2024年3月期の営業利益黒字化達成に向け、「付加価値の向上による単価アップ」、「人員充足」、「コスト削減」を重点施策として推進してまいりました。売上高は、引き続き堅調な外食及び国内旅行需要を背景に、新型コロナ「5類感染症」移行後、初めての「クリスマス」や「年末」を含む最大の商盛期である第3四半期の売上最大化に向け、各種企画を早々にマーケットに打ち出し計画的に集客したこと、及び深刻な人手不足の環境下において、事前に派遣やアルバイトを拡充し、全社一丸となって万全な体制で臨んだことに加え、従前から推し進めてきた「付加価値の向上による単価アップ」施策などが奏功し、レストラン、プライダル、ホテル全ての事業において前年を大幅に上回り、10月以降3ヶ月連続で過去最高の月次売上高を更新する結果となりました。

利益面においては、原材料価格やエネルギーコストの高騰、さらには業界全体の人員不足により採用コストが想定を大きく上回るとともに、高単価な派遣社員を余儀なく登用したことによる人件費の大幅な増加などが利益を圧迫しましたが、前述の大幅な増収効果により原価率、及び人件費率が計画内でコントロールすることが出来たこと、加えて電力供給業者の見直しやLED化、省エネ機器の導入による光熱費削減などの「コスト削減」施策を進めたことにより、計画を大きく上回る水準で着地いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高10,641百万円(前年同期比12.2%増)、営業利益389百万円(前年同期は営業損失333百万円)、経常利益332百万円(前年同期は経常損失307百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益294百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失335百万円)と前年同期を大幅に上回る結果となりました。なお、「中期経営計画」に対する進捗は、売上高が計画比5.4%増となりその結果、営業利益、経常利益、四半期純利益それぞれにおいて、計画比107.9%増、166.5%増、216.3%増と大幅に計画を上回り推移しております。

尚、閑散期となる第4四半期は、当初より設備メンテナンスのための休業や、休業期間を利用した各事業においてスタッフの勉強会、及びチームビルディングなどを実施する予定であり、当初計画では損失を見込んでおります。また、年明けに発生した能登半島地震などの影響により、昨年までの外食及び国内旅行需要に変化の兆しが見られ、厳しい状況となる可能性があることから、通期の業績見通しは当初計画から敢えて変更しておりません。通期の業績見通しが、適時開示の要件に抵触する見込みとなった段階で速やかに開示いたします。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(レストラン事業)

当第3四半期連結累計期間におけるレストラン事業の売上高は6,931百万円(前年同期比12.1%増)、営業利益は857百万円(前年同期比55.6%増)となりました。

新型コロナ「5類感染症」移行後の堅調な外食需要を背景に、食材が豊富な秋の繁忙期やクリスマス及び年末の商盛期に向け、高付加価値かつ高単価の季節限定メニューやクリスマス特別メニューを早期に展開し集客を開始したことがお客様の来店意欲の喚起と価値向上による単価アップにつながり、ランチ、ディナー売上ともに計画並びに前年同期を大きく上回る結果となりました。特に中期経営計画にて「付加価値の最大化に向けた戦略投資」として9月にリニューアルオープンした「レストランテASO」、「カフェ・ミケランジェロ」(代官山)においては、両店ともに連日満席となる盛況に加え、内外装のみならず新たなメニュー開発によりお客様の体験価値を更に強化した結果、両店の顧客満足度向上に加え、単価アップにも寄与し、売上は改装後において前年同期比+23.2%と好調に推移しております。

カフェ営業においては、前述の「カフェ・ミケランジェロ」(代官山)に加え、新国立美術館(六本木)にある3つのカフェ「サロン・ド・テ ロンド」、「カフェ コキユ」、「カフェテリア カレ」が好調に推移し、売上は計画並びに前年同期を大幅に上回る結果となりました。

パーティ営業につきましては、「秋の収穫祭」や海外提携ブランドのシェフ来日イベントなど、当社主催のパーティを積極的に開催したことに加え、法人営業を強化したことで企業や高級ブランドなどの法人パーティ需要を積極的に取り込んだことにより、売上は計画並びに前年同期を大幅に上回る結果となりました。

婚礼営業につきましては、コロナ禍において少人数化していた婚礼の列席者数が徐々に回復傾向になる中、料飲の単価アップ施策や、パートナー企業との連携による高単価商品の開発及び販売強化など、当社ならではの施策に

より組単価が大幅に上昇し、売上は計画並びに前年同期を上回る結果となりました。婚礼獲得においては、平日見学の強化や外部委託スタッフの有効活用などに加え、新たな獲得強化及び単価アップ施策として来店前アンケートによるニーズ把握から婚礼プラン提案までのシステム化に着手するなど、来期婚礼の獲得強化に向けた取組みを進めております。

(ホテル事業)

当第3四半期連結累計期間のホテル事業の売上高は3,535百万円(前年同期比11.8%増)、営業利益222百万円(前年同期比525.9%増)となりました。なお、GOP(販売費及び一般管理費より地代家賃、減価償却費を控除した営業粗利益)につきましては、1,012百万円(前年同期比25.0%増)となっております。

秋の行楽シーズンに円安が加速したことにより旅行需要が海外から国内にシフトしたことに加え、インバウンド需要も引き続き堅調に推移いたしました。これらの需要に積極的に対応するため、各ホテルが趣向を凝らした様々な施策を推進した結果、リピーターの利用も含め順調に集客を伸ばし、高稼働を維持することができました。また、単価についてもホテル毎に地域性や特徴を活かした料理やサービス、アクティビティの開発による提供価値の向上を推進した結果、前年同期を上回り堅調に推移いたしました。

特にインバウンド獲得強化策といたしまして、6月にシンガポールで開催されたILTMAP(International Luxury Travel Market Asia-Pacific:世界の富裕層旅行者を取り扱う商談会)への参加に加え、海外OTA(Online Travel Agency)の拡充と販促強化を引き続き推進しております。これらの結果、インバウンドによる売上は前年同期比247.6%増と大幅に増加しております。特にインバウンドを強化している京都ホテルにおいては、月次利用組数の半数をインバウンドが占めており、順調に稼働を伸ばしております。

(その他)

当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は341百万円(前年同期比73.6%増)、営業利益は64百万円(前年同期比52.7%増)となりました。なお、連結子会社との内部取引にかかる調整額を除いた実績は、売上高174百万円(前年同期比22.6%増)、営業利益57百万円(前年同期比21.9%増)となっております。

オンライン販売においては、クリスマス、年末年始に向け強化したプレミアムシャンパーニュセットやフランス以外の銘醸地ワインの取り扱いを開始するなど、高価格帯の商品を中心に販売が堅調に推移しました。

また、新たなライセンスビジネスの展開として、「カフェ・ミケランジェロ」のライセンス1号店「アルベルゴ・カフェ・ミケランジェロ」の運営主体となる株式会社HESTA大倉と共に12月19日「センタラグランドホテル大阪」(難波)にオープンいたしました。当社がこれまで培ってきた知見とブランドを活かした新たな事業モデルの追求は、収益多様化への取り組みとして今後も推進してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ118百万円増加し、21,879百万円となりました。これは主に、建物及び構築物(純額)が109百万円増加したこと等によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べ222百万円減少し、17,017百万円となりました。これは主に、流動負債が198百万円減少したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ340百万円増加し、4,862百万円となりました。これは主に、利益剰余金が294百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました「2023年3月期 決算短信」に記載された内容から変更はございません。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確定要素が含まれております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,259,699	5,055,773
売掛金	709,757	936,903
原材料及び貯蔵品	1,337,535	1,468,581
その他	326,742	307,024
貸倒引当金	△3,235	△3,257
流動資産合計	7,630,499	7,765,025
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,888,839	10,998,120
土地	764,963	764,963
その他（純額）	1,196,600	1,096,223
有形固定資産合計	12,850,403	12,859,308
無形固定資産	33,494	28,022
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,205,788	1,205,905
その他	36,061	19,205
投資その他の資産合計	1,241,850	1,225,110
固定資産合計	14,125,748	14,112,441
繰延資産		
新株予約権発行費	4,097	1,796
社債発行費	1,517	606
繰延資産合計	5,614	2,402
資産合計	21,761,862	21,879,869

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	458,930	559,797
未払法人税等	32,424	24,318
契約負債	424,873	290,718
その他	1,067,167	910,373
流動負債合計	1,983,395	1,785,208
固定負債		
社債	300,000	200,000
長期借入金	14,223,881	14,323,881
資産除去債務	615,417	617,571
その他	117,202	91,048
固定負債合計	15,256,500	15,232,501
負債合計	17,239,896	17,017,709
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	7,658,519	7,658,519
利益剰余金	△1,321,378	△1,027,297
自己株式	△2,066,375	△2,066,387
株主資本合計	4,370,765	4,664,834
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	129,680	175,805
その他の包括利益累計額合計	129,680	175,805
新株予約権	21,520	21,520
純資産合計	4,521,965	4,862,160
負債純資産合計	21,761,862	21,879,869

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
売上高	9,487,828	10,641,586
売上原価	3,958,052	4,381,339
売上総利益	5,529,775	6,260,247
販売費及び一般管理費	5,862,986	5,871,180
営業利益又は営業損失(△)	△333,210	389,066
営業外収益		
受取利息	24	26
為替差益	748	-
業務受託料	3,572	3,892
受取賃貸料	6,999	10,633
補助金収入	83,319	-
その他	17,641	12,518
営業外収益合計	112,305	27,070
営業外費用		
支払利息	67,494	65,837
社債利息	331	955
為替差損	-	6,634
株式報酬費用消滅損	12,221	3,152
その他	6,968	6,801
営業外費用合計	87,016	83,382
経常利益又は経常損失(△)	△307,921	332,754
特別利益		
固定資産売却益	7,272	-
特別利益合計	7,272	-
特別損失		
固定資産除却損	-	14,355
特別損失合計	-	14,355
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△300,649	318,399
法人税、住民税及び事業税	24,318	24,318
法人税等調整額	10,043	-
法人税等合計	34,361	24,318
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△335,010	294,081
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△335,010	294,081

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△335,010	294,081
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△51,561	46,125
その他の包括利益合計	△51,561	46,125
四半期包括利益	△386,572	340,207
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△386,572	340,207
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について、当第3四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	レストラン事業	ホテル事業	計			
売上高						
サービスの提供	6,114,825	3,051,856	9,166,682	—	—	9,166,682
物販その他等	67,637	110,882	178,520	142,625	—	321,146
顧客との契約から 生じる収益	6,182,463	3,162,739	9,345,202	142,625	—	9,487,828
外部顧客への売上高	6,182,463	3,162,739	9,345,202	142,625	—	9,487,828
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	54,135	△54,135	—
計	6,182,463	3,162,739	9,345,202	196,760	△54,135	9,487,828
セグメント利益又は損失(△)	551,455	35,519	586,974	42,345	△962,530	△333,210

- (注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オンライン販売などの事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去26,195千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△988,726千円であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	レストラン事業	ホテル事業	計			
売上高						
サービスの提供	6,837,768	3,427,228	10,264,996	—	—	10,264,996
物販その他等	93,817	107,880	201,697	174,891	—	376,589
顧客との契約から 生じる収益	6,931,586	3,535,108	10,466,694	174,891	—	10,641,586
外部顧客への売上高	6,931,586	3,535,108	10,466,694	174,891	—	10,641,586
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	166,675	△166,675	—
計	6,931,586	3,535,108	10,466,694	341,566	△166,675	10,641,586
セグメント利益	857,821	222,319	1,080,140	64,666	△755,741	389,066

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オンライン販売などの事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△5,227千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△750,513千円であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当第3四半期連結累計期間において売上高の回復はみられるものの、長引く新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、前連結会計年度まで継続して経常損失を計上しており財務制限条項に抵触している状況にあります。

しかしながら、このような状況に対し、アフターコロナを見据えた中期経営計画の推進により早期の黒字化を目指すとともに、第三者割当増資による46億円の資金調達及び、30億円の資本性劣後ローンによる資金調達により十分な運転資金を確保していることに加え、各金融機関との間で、2024年7月末まで既存借入に関する貸付元本の返済猶予について合意していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものの、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。